

博士論文ニーズ調査（利用面・発信面）結果報告

多数のご意見をお寄せいただきました、博士論文ニーズ調査（利用面・発信面）について下記のとおり結果を報告いたします。

これらのご回答につきまして、今後の事業の参考とさせていただきます。

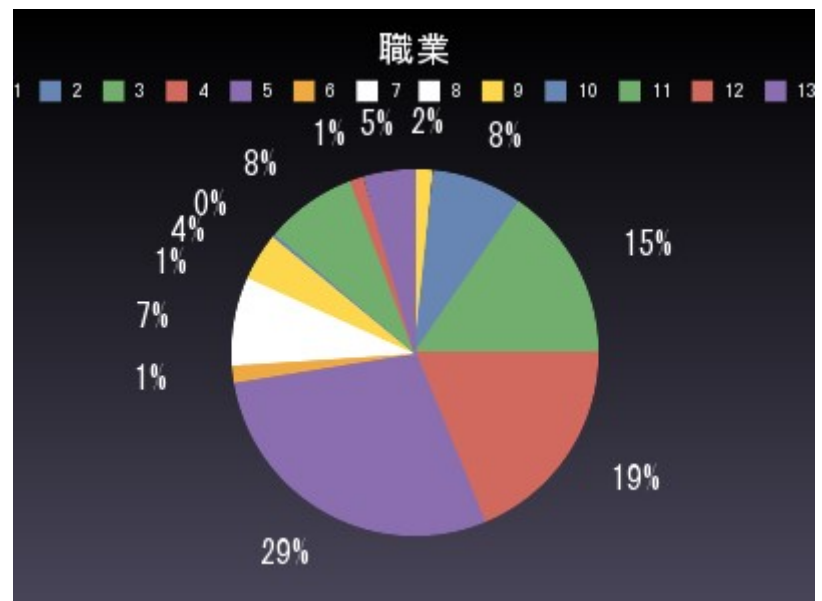
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

アンケート実施期間：平成 20 年 5 月 26 日（月）～6 月 20 日（金）

有効回答数：1,273 件

Q0.職業を選んでください。

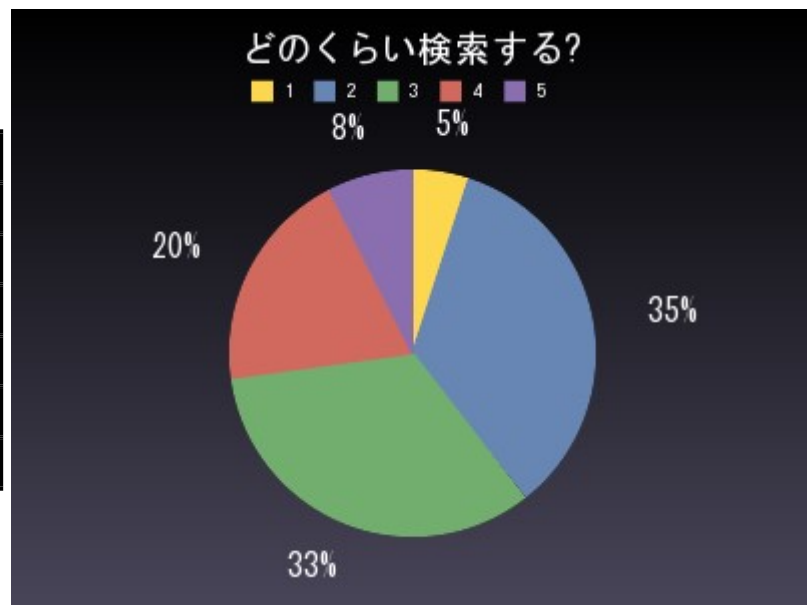
	Q0.職業	合計
1	回答しない	20
2	学生(大学院生のぞく)	101
3	大学院生(修士)	195
4	大学院生(博士)	238
5	大学教員	363
6	教員(大学以外)	19
7	図書館員(大学等)	89
8	図書館員(大学等以外)	10
9	官公庁等職員(研究職・技術職)	53
10	官公庁等職員(その他事務職)	4
11	会社員(研究職・技術職)	102
12	会社員(その他事務職)	15
13	その他	58
	総計	1267



【利用面】

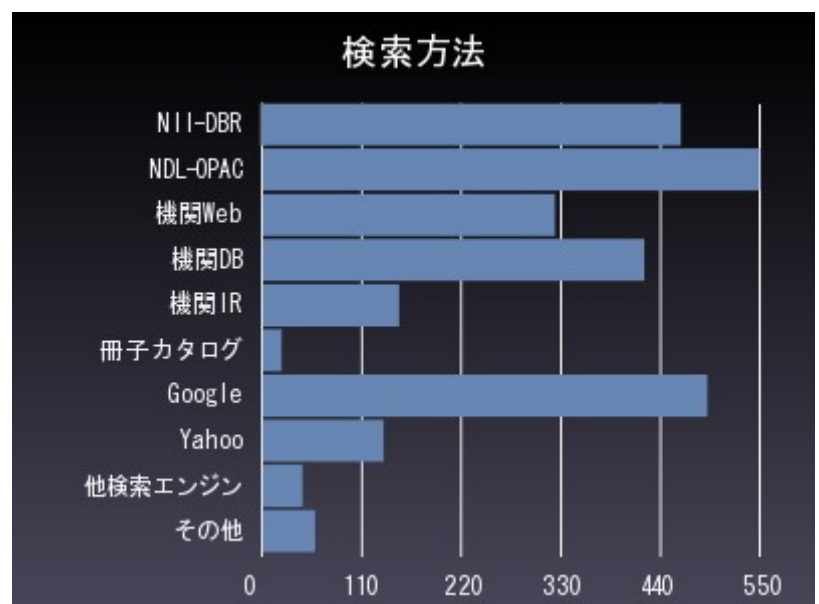
Q1.国内博士論文をどのくらい検索することがありますか？

	Q1.どのくらい検索する?	合計
1	ほぼ毎日利用する	62
2	月に数回は利用する	437
3	年に数回は利用する	422
4	利用しない	249
5	その他	96
	総計	1266



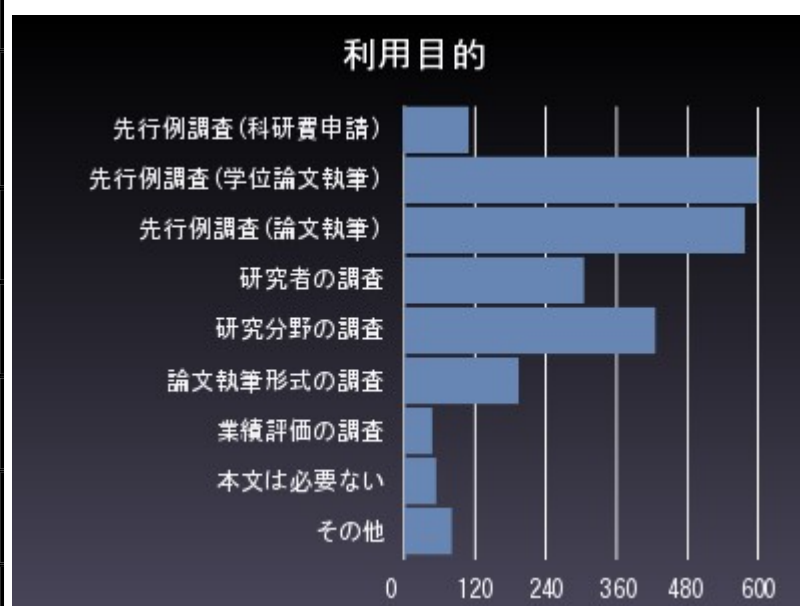
Q2. 国内博士論文の検索にご利用の方法を教えてください。(いくつでも)

Q2.検索方法	合計
NII-DBR	467
NDL-OPAC	552
各機関(学部・学科)の Web サイト	325
各機関の図書館のデータベース	424
各機関の機関リポジトリ	152
冊子のカタログ	22
Google 検索から	494
Yahoo 検索から	135
その他検索エンジンから	45
その他	59
総計	2675



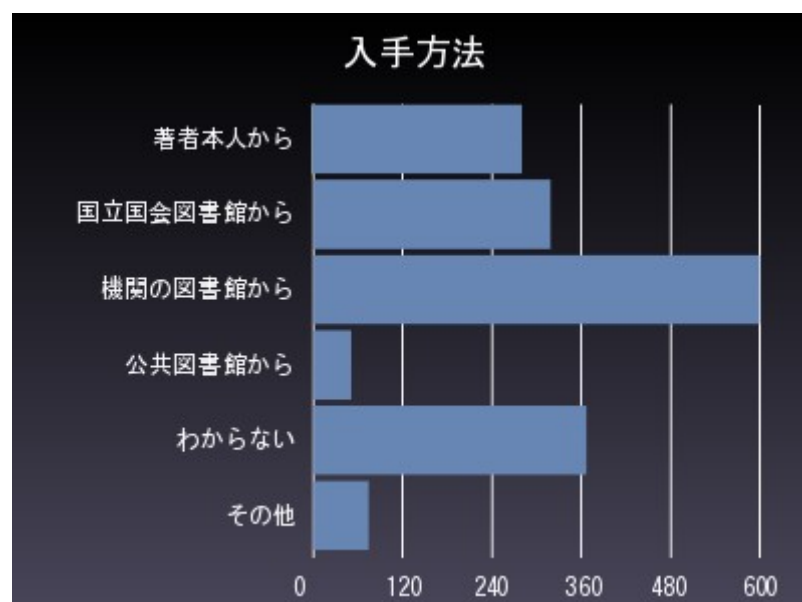
Q3.国内博士論文の検索，本文入手の目的について教えてください。（いくつでも）

Q3.利用目的	合計
科学研究費補助金申請時の 先行例調査	119
学位論文(卒論・修論・博論 等)執筆時における先行研究 の調査	629
論文執筆等における先行研 究の調査	606
特定の研究者の研究分野の 調査	320
特定の研究分野の動向の調 査	447
博士論文執筆時における形 式の調査	204
研究業績評価の調査	50
本文は必要ない	57
その他	85
総計	2517



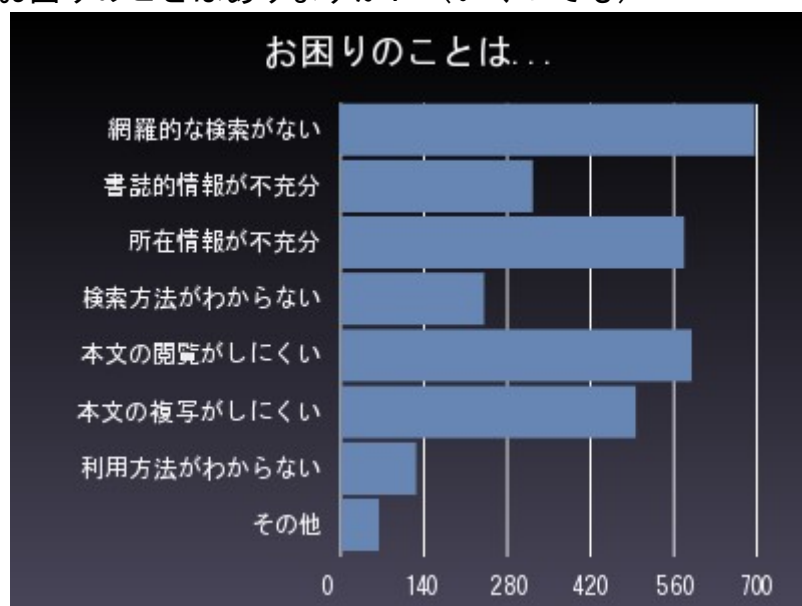
Q4.国内博士論文の本文が必要な場合，どのような手段で入手しますか？（いくつでも）

Q4.入手方法	合計
博士論文の著者本人から入 手する	288
国立国会図書館から入手す る	325
所属の機関の図書館・室を 通して入手する	611
公共図書館を通して入手す る	52
入手の方法がわからない	374
その他	76
総計	1726



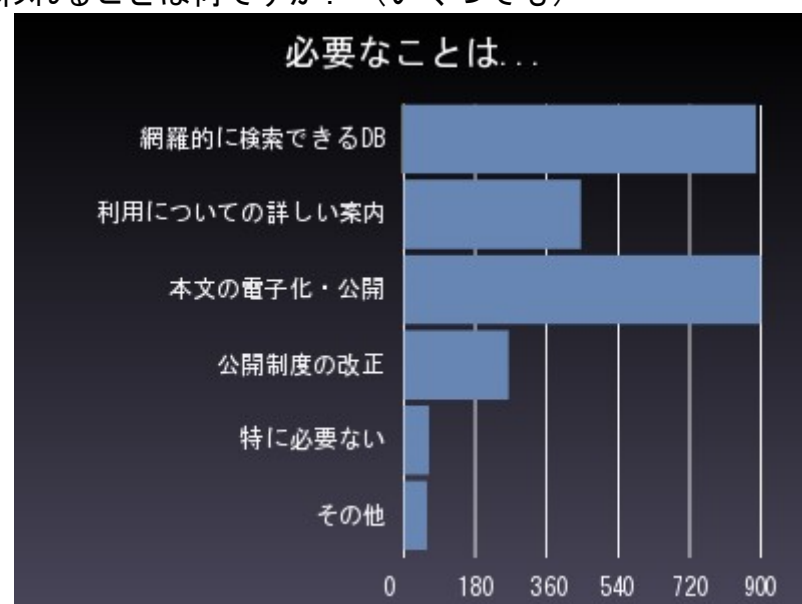
Q5.国内博士論文の検索，本文入手でお困りのことはありますか？（いくつでも）

Q5.お困りのことは...	合計
全ての博士論文を網羅的に検索できる手段がない	747
データ項目(書誌的情報)が不十分	345
入手方法・所在に関する情報が不十分	617
博士論文の検索方法がわからない	258
本文の閲覧がしにくい	630
本文の複写がしにくい	530
本文の利用の方法がわからない	136
その他	69
総計	3332



Q6.博士論文の利便性向上に必要と思われることは何ですか？（いくつでも）

Q6.必要なことは...	合計
博士論文を網羅的に検索できるデータベース	938
博士論文の利用についての詳しい案内	469
博士論文の本文の電子化・公開	945
博士論文の公開制度の改正	278
特に必要ない	68
その他	62
総計	2760

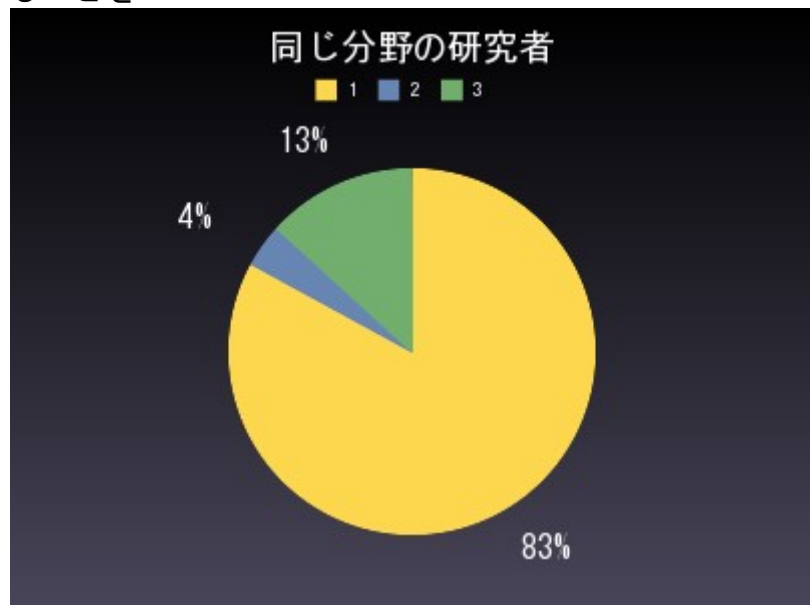


【発信面】

Q7.ご自分が書いた博士論文を，他の人に読まれたと思いますか？

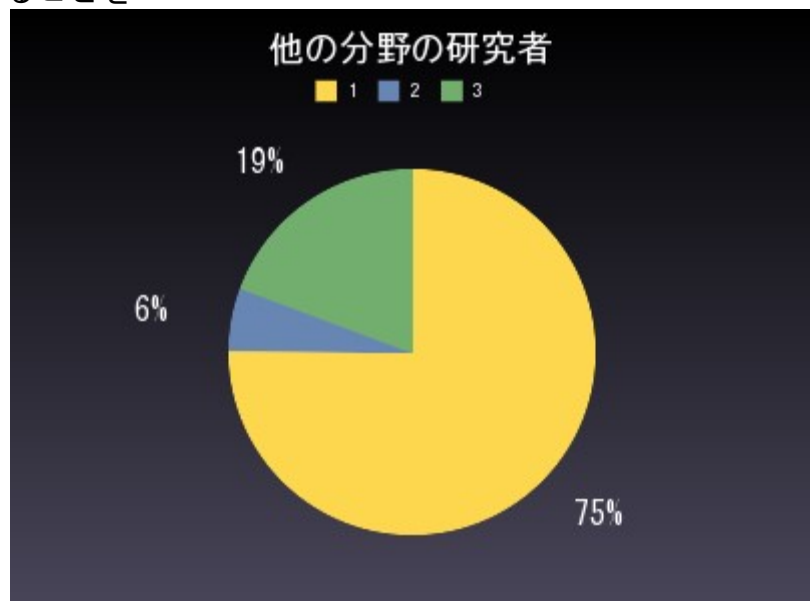
Q7-1.同じ分野の研究者に読まれることを

	Q7-1.同じ分野の研究者	合計
1	望む	972
2	望まない	45
3	どちらとも言えない	156
	総計	1173



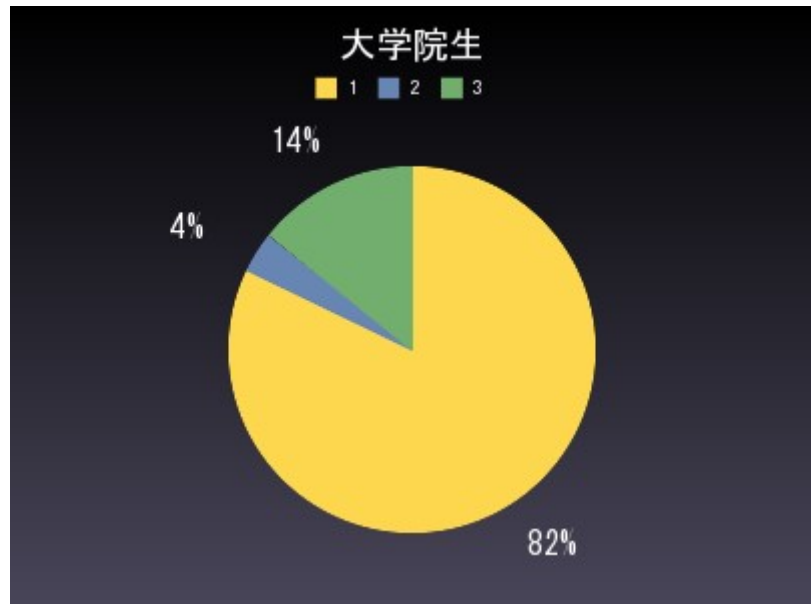
Q7-2.他の分野の研究者に読まれることを

	Q7-2.他の分野の研究者	合計
1	望む	880
2	望まない	65
3	どちらとも言えない	227
	総計	1172



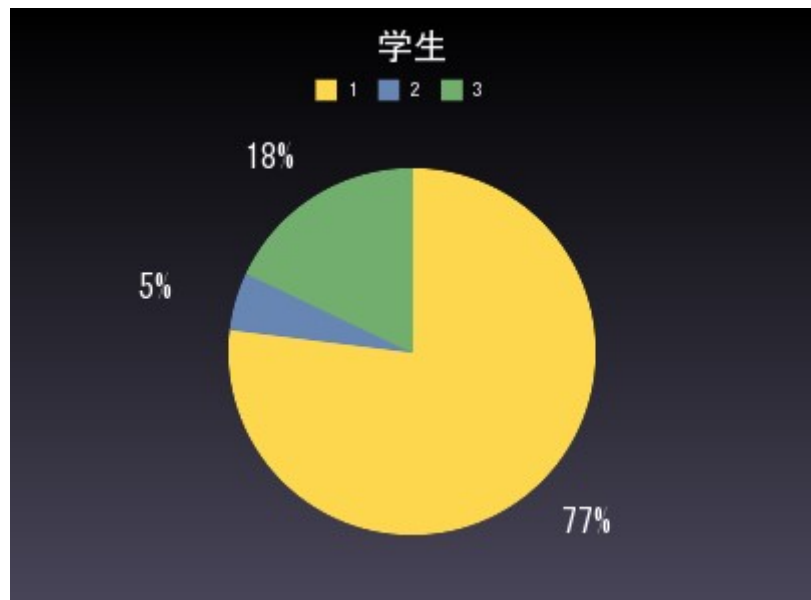
Q7-3.大学院生に読まれることを

	Q7-3.大学院生	合計
1	望む	961
2	望まない	43
3	どちらとも言えない	167
	総計	1171



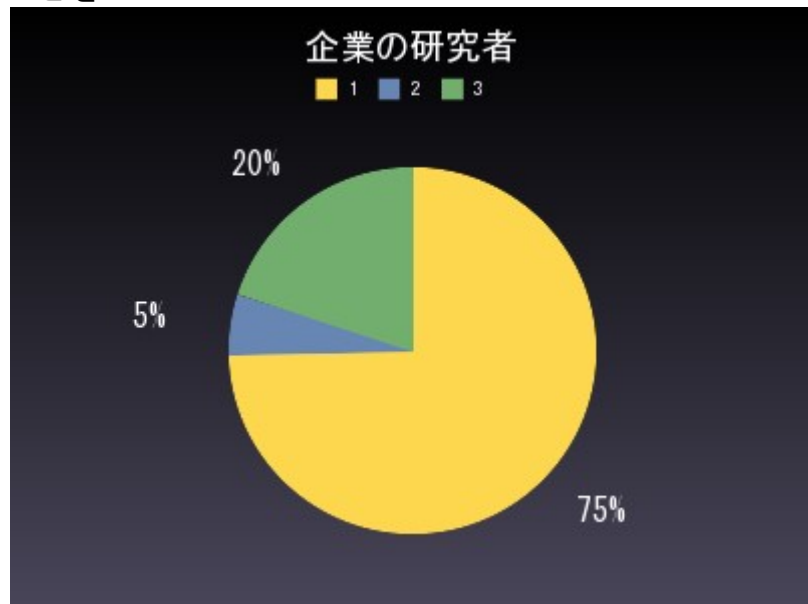
Q7-4.学生に読まれることを

	Q7-4.学生	合計
1	望む	901
2	望まない	60
3	どちらとも言えない	211
	総計	1172



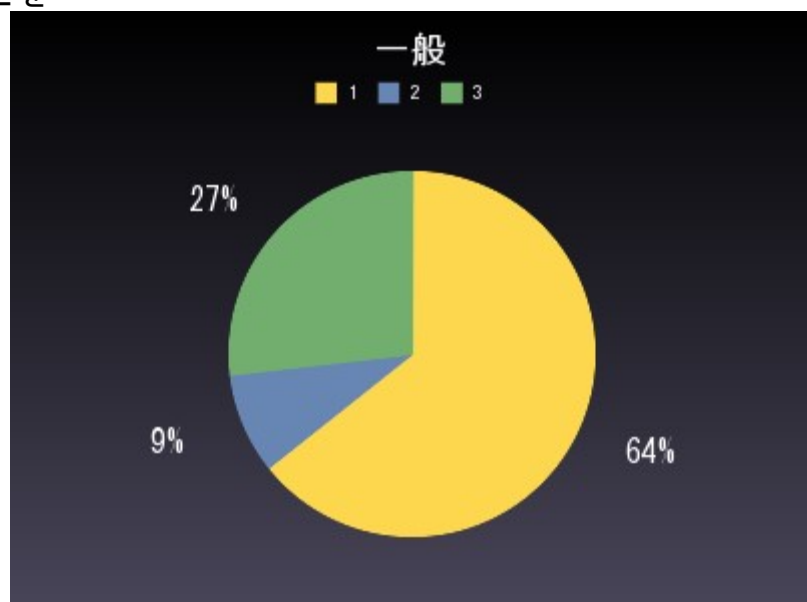
Q7-5.企業の研究者に読まれることを

	Q7-5.企業の研究者	合計
1	望む	872
2	望まない	63
3	どちらとも言えない	234
	総計	1169



Q7-6.一般の人に読まれることを

	Q7-6.一般	合計
1	望む	752
2	望まない	104
3	どちらとも言えない	315
	総計	1171

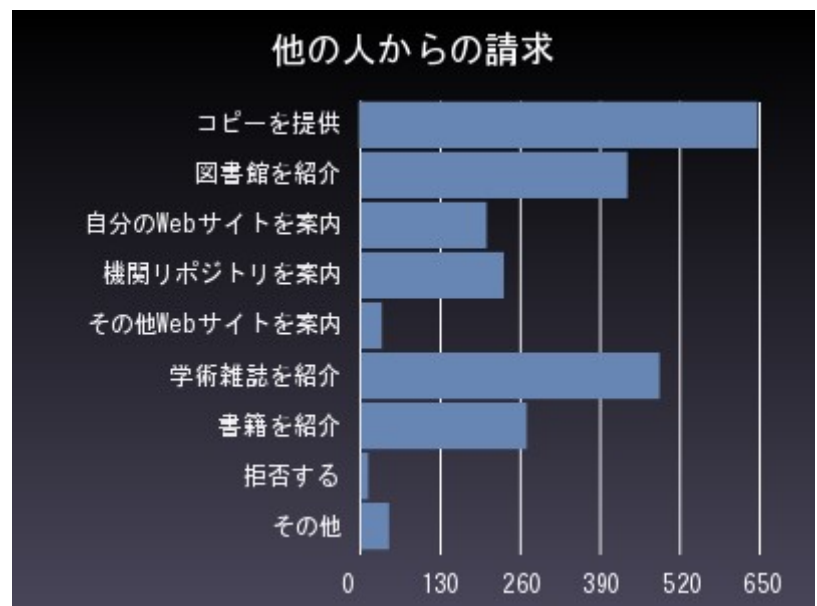


Q7-7.その他の回答より

- ・ 研究業績の一指標なので公開は当然、利用に供していきたい。
- ・ 様々な研究者に読まれることで、多くの意見が得られる。この社会的意義は十分に大きいと思う。
- ・ 学問は共有財産であり、博士論文は原則公開（ネットも含めて）であるべきだと思う。また、もっと利用できる体制をととのえるべきだと思う。
- ・ 英文なので、外国の研究者にも利用できる様にしたい。
- ・ 社会に役立つために研究しています。役に立つためならば是非読んでいただきたい。
- ・ 博士号を取得した大阪大学では、博士論文のインターネット公開準備を進めているそうです。
- ・ すでに検索されて読まれているようだ。大学で本文含めて公開しているので。
- ・ 博士論文に限らず、論文として発表するものについては基本的に誰からでも読める状態になるのがもっともよいと思う。
- ・ 博士論文の本来の意味としてはもちろん公に提供して多くの方に閲覧してもらいたいと思うが、一方で博士論文の一部を雑誌論文として投稿する場合を考えると投稿前に博士論文が発表されている場合には内容を事前に知られたくないし、投稿後の場合でも博士論文本文よりは雑誌記事論文を利用された方が業績として望ましく感じることもあり、複雑である。

Q8.ご自分が書いた博士論文を，他の人から読みたいと言われたらどうしますか？
(いくつでも)

Q8.他の人からの請求	合計
コピーを提供する	698
博士論文を所蔵している機関の図書館を紹介する	467
論文を公開している自分の Web サイトを案内する	221
論文を公開している機関リポジトリを案内する	251
論文を公開しているその他 Web サイトを案内する	38
同内容の掲載された学術雑誌を紹介する	523
同内容の掲載された書籍を紹介する	291
拒否する	14
その他	50
総計	2553



Q9.国内博士論文の検索・利用・本文の電子的発信・入手等についてご意見をお聞かせください。

Q9-1.博士論文の本文を電子的に公開するメリット・デメリットは何があると思いますか？

Q9-2.特に、過去にさかのぼって紙媒体の博士論文を電子化・公開するメリット・デメリットは何があると思いますか？

Q9-1-a. Q9-2-a.メリット

具体的記述数：750。以下は、主な記述内容。

(研究面)

- ・ 研究の利便性向上
- ・ 学術リソースの共有・異分野の交流・情報の流動化による研究の加速が期待される
- ・ 系統的に研究内容の全体像を公開することができる
- ・ 先行研究の調査が容易になる、時間の節約
- ・ 一般の学術論文に記載されていない、詳細な実験方法、データ等について検討できる
- ・ 本文中のキーワードでの検索が可能になる
- ・ 研究者の知名度向上

(教育面)

- ・ 若い研究者が博士論文を書く際の見本となる。
- ・ リファレンスが容易になり、論文の質が向上する。
- ・ 指導する大学院生・学生に例を示すことができる。
- ・ 学位クオリティ・チェックの容易化

(社会貢献)

- ・ 自分の研究の成果を広く知ってもらうことにより、研究結果を還元できる。
- ・ 情報・知識の共有化

Q9-1-b. Q9-2-b.デメリット

具体的記述数：567。以下は、主な記述内容。

- ・ デメリットはない：約 150
- ・ コストの無駄、時間の無駄
- ・ 著者にとっての不利益（学術雑誌のほうを読まれたい、学術書が売れなくなる）、著作権の問題
- ・ 電子化・公開を前提としていないための問題点（質の問題、プライバシーの問題）
- ・ 個人の自由をある程度残してほしい